

糖尿病患者、リスクを目標値内にすれば心臓血管イベントリスクは高くなり

2型糖尿病患者は、一般人口と比べて死亡や心臓血管イベントのリスクが高いとされている。本研究では、2型糖尿病に関連する過剰なリスクが軽減されたり消失したりする可能性があるかについて検討した。

スウェーデンの全国糖尿病登録の2型糖尿病患者271,174例（糖尿病群）と、年齢、性別、地域をマッチさせた糖尿病のない地域住民1,355,870例（対照群）を対象に年齢別、5つのリスク因子（糖化ヘモグロビンの上昇、LDLコレステロール値の上昇、アルブミン尿、喫煙、血圧の上昇）の有無別に解析を行った。目標値の範囲から外れているリスク因子の数と4つの転帰（死亡、急性心筋梗塞、脳卒中、心不全による入院）の過剰リスクについて評価した。中央値5.7年の追跡期間中に175,345例が死亡した。糖尿病群は対照群に比べ、目標値の範囲外のリスク因子の数が増えるにつれて4つの転帰のハザード比が段階的に上昇した。5つのリスク因子が全て目標値の範囲内にある糖尿病患者は、対照群と比べ全死因死亡のハザード比が1.06、急性心筋梗塞のハザード比は0.84、脳卒中のハザード比は0.95であった。心不全による入院リスクについては、目標値が全て範囲内の糖尿病群においても、対照群と比べて有意に高かった（ハザード比1.45）。糖化ヘモグロビン値が脳卒中と心筋梗塞の最も強い予測因子であった。死亡については、喫煙が最も強い予測因子であった。

したがって、5つの糖尿病に関連するリスク因子が目標値の範囲内にある2型糖尿病患者では、死亡、心筋梗塞、脳卒中のリスクが一般人口と比べてそれほど過剰ではないことが示された。

The New England Journal of Medicine. 2018; 379(7): 633-644.